



中央検査室

「検査」とひとことで言っても、非常に多くの検査があります。

私たち臨床検査技師が担う検査は、大きく分けて検体検査と生理機能検査の2つがあります。血液や尿のような身体から取り出したもの(検体)で行う検査を検体検査といい、心電図のような皆さまの身体に直接電極などをつけて行う検査を生理機能検査といいます。健康診断や診察前の検査などを思い出して頂けたらわかりやすいと思います。

◆検体検査

検体検査を細かく分けると生化学検査、免疫検査、感染症検査、内分泌検査、微生物検査、病理・細胞診検査などがあります。

血液検査では肝臓・腎臓・心臓などのさまざまな臓器の病気、貧血、糖尿病、感染症、がんなどがわかります。尿検査では腎臓や膀胱の病気などがわかります。

そのほかにも便・喀痰・関節液・胸水・腹水・髄液・組織などが検査の対象になります。最近、耳にすることの多いPCR検査もこの検体検査のひとつです。

◆生理機能検査

生理機能検査には心臓や肺といった臓器などの状態をみる検査がいろいろあります。

心臓をみる検査には心電図検査があり、安静時心電図検査のほかに、階段の昇降などの運動をして、その前後の心電図を比較する負荷心電図検査や胸に小さな機械を付けたまま1日を過ごして、不整脈の有無をみるホルター心電図検査があります。この負荷心電図検査やホルター心電図検査では運動や普段の生活で起こる不整脈を見つけることができます。

肺をみる検査には肺機能検査があり、肺活量や肺年齢などがわかります。この検査は被検者に息を大きく吸ったり吐いたりしてもらう必要があるため、特に皆様の協力が必要になる検査です。

そのほかにも血圧脈波検査(ABI)、音波検査、脳波検査や睡眠時無呼吸症候群の検査などがあります。

中央検査室では検査を通じて皆さまに寄り添っていけるよう努力してまいります。

中央検査室 鈴木



～ おおせデイサービスセンターのご紹介 ～

『デイサービスならお任せください！
病院・在宅連携と安心のサービス』

入浴 あり

リハビリ
機能訓練 あり

お楽しみ あり



ご家族の負担軽減。中重度の方も。
様々なニーズに対応いたします！



きたぞうバス 運行中



浜松北病院が運行する無料巡回バスです。病院にお越しの際、お帰りの際に、どうぞご利用ください。

総合受付に時刻表がありますので、ご自由にお持ちください



〒431-3113

静岡県 浜松市 東区 大瀬町1568

TEL (053)-435-1111

FAX (053)-433-2700

Webページはこちら(QRコード) >>



翔き

はばた

2023
春号
No.69



おおせデイサービスの風景
利用者の皆さんに楽しんでいただける催しを
日々企画しています



医療法人社団 盛翔会

浜松北病院

基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実現する



糖尿病治療薬の進歩

今回は、糖尿病治療薬の可能性のお話です。

地球上に初めて人類が誕生したのが約500万年前。そこから世代交代を繰り返し、進歩を重ねることで、現在のヒト——ブドウ糖をエネルギー源とする60兆個の細胞からなる生物——に進化しました。科学が発展し、人類は自らの細胞の設計図である遺伝子を発見。これを解析することで、多くの生理学的、生化学的な謎が紐解かれました。現在では多くの疾病の治療薬が開発され、寿命も延び続け、人生100年時代などと言われるまでになっています。

野生では、生物は飢餓状態にあることの方が多く、生存のためには低血糖状態を耐え凌ぐ能力が必要でした。ヒトは進化の過程で「糖新生」というシステムを獲得し、血糖値が低い時には自らの肝臓で糖を作ることができるようになりました。このシステムの構成、維持のために、数多くのホルモンが関わっています。

一方で、血糖値を下げる働きをするホルモンは「インスリン」しかありません。インスリンの分泌を促すホルモンとして「インクレチン」がありますが、炭水化物の消化吸収ではインスリンが主役、インクレチンが補佐的な役割をしています。このインスリン-インクレチン連携の機能障害が、2型糖尿病の発症・増悪に関与することがわかっています。

2型糖尿病は、インスリンの作用が弱い、あるいは分泌量の低下により、糖の利用能力が下がり、血糖値が上昇する病気です。主な原因は運動不足と過食です。消費を超えたエネルギーの供給は、内臓脂肪の過剰蓄積を招きます。肥大化した脂肪細胞はインスリンの働きを妨げ、糖が使いにくい状態に陥ります。これが高血圧、さらには各種脂質の代謝異常を招き、動脈硬化性血管障害を誘発するのです。

2008年に始まった特定検診は、生活習慣病の予防を目的としており、ハイリスク者には健康指導を実施しています。食事、運動、生活面から改善をサポートし、2型糖尿病や高血圧、脂質異常症などの減少を目指しています。

しかし、これまでの生活を変えることは簡単ではありません。2型糖尿病の患者さんの中には、食事運動療法の実践が十分でない方も、少なからずおられます。では、こうした患者さんの病気の進行は避けられないのでしょうか。

実は、治療薬の進歩により、十分な食事運動療法ができなくても、病気の進行を抑えることができるようになってきました。最近ではGLP-1受容体作動薬、SGLT-2受容体阻害薬といった薬剤が、心臓、腎臓、血管内皮細胞などに対する臓器保護作用を示すことが判明し、治療ガイドラインにも導入される等、大いに期待されています。もちろん暴飲暴食を帳消しできるようなものではありませんから、従来の食事運動療法も継続すべきですが、それでも以前と比較すると、生活の「許容範囲」が広がってきています。

糖尿病治療には、これまでのライフスタイルを節制し、自己管理を続けていかなければならない、辛いイメージがあるかもしれません。ですが、適切な薬物療法により、糖尿病でも質の良い人生を送ることが十分可能な時代になっていることも、我々医療者はお伝えする必要があります。日常の診療や、北病院が主催する「友の会」の活動なども通じて、糖尿病を抱える皆さんと一緒に、よりよく生きる方法を考えて参ります。

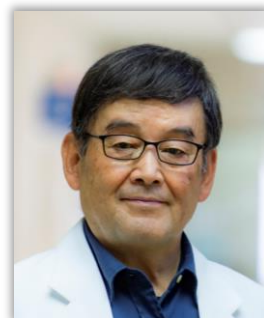
澤田 健 医師

糖尿病・内分泌 専門

外来診療時間（受付時間）

水曜日・金曜日
午前 8:00 ~ 11:30

水曜日
夕方 16:30 ~ 18:45



元気をお裾分け

枯れ野に見えた山肌も、一斉に芽吹き始め、緑が目立つようになってきました。`山笑う、の季語が当てはまる季節となってきましたね。しかし、まだ昼と夜の寒暖の差が激しいので体調管理には注意が必要です。

先日、FMで「大人になったな…とを感じる事」をテーマに、リスナーからの意見を紹介しておりました。中でも「子供の頃、食べられなかった物が大人になり食べられるようになった」という話が多く、`ピーマン、`蟹味噌、`山菜、等が挙げられておりました。山菜と言えば2月、3月はシーズン真っ只中です。ラジオの声は、天の啓示に違いない…と、山仕事をしている知人に『踏(ふき)の臺(とう)ある?』と連絡しましたが『見つからない』との悲しい返事。無いと聞くと余計に欲しくなるもので、仕事終わりに少し遠回りして帰る事に。山に着く頃、辺りは真っ暗。空には星が瞬いています。不審者と間違えられそうですが、ゆっくり車を転がします。所々、土が掘られた跡があり、猪も山菜採りに勤んでいる様子が想像出来ました。探す事1時間、やっとの思いで彼らの残してくれた踏の臺を5個程見つけ帰宅。急いで踏味噌をこしらえ、遅い夕食となりました。出来立て味噌を、御飯と頬張ると、口いっぱい広がる踏の香りと爽やかな苦み。至福の瞬間です。この味で喜びを感じる大人になれて良かったと思いました。(投稿していたリスナーも同じ気持ちだと思います)

これからまだ、ワラビ、ゼンマイ等、採れる時期が続きます。それらを頂く事で、山の生命力を分けてもらえる…。そんな気がします。(次はワラびご飯?)

追伸…ワラビ、ゼンマイはアクが強いものです。身体に害があるのでアク抜きはしっかりと行って下さい。重曹・熱湯があれば、8時間放置すればアク抜きは完了します。(検索すると出ていますよ)アク抜きが終わってれば、麵つゆで サッとお浸しが作れます。簡単で美味しいですよ。

管理栄養士 青山